筑波大学
国際産学連携本部

開発研究センター

PMC プレシジョン・メディスン開発研究センター
Research and Development Center for Precision Medicine

日本初の1000 ドルゲノム解析拠点を目指して

未来社会工学開発研究センター
Society5.0を実現するモビリティ・インフラの先端研究拠点

スポーツイノベーション開発研究センター
国立大学初 Athletic Department（AD）の社会実験拠点

ヘルスサービス開発研究センター
健康・幸福をもたらすサービスの学問に特化した日本初の拠点

テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター
食と運動と睡眠を通して一人一人にQOLを向上するプログラムを提供

働く人への心理支援開発研究センター
働く人への心理支援に関する研究と社会貢献体制を整備した開発研究センター

イノベイティブ計測技術開発研究センター
IMC

革新的計測評価技術の開発研究を目指して

革新的創薬開発研究センター
iDD Innovative Drug Discovery

新薬、新技術で、活力ある 100 年の人生を

デジタルネイチャー開発研究センター
Research and Development Center for Digital Nature

計算機と自然の新しい関係性を探求

健幸イノベーション開発研究センター
RDC Weli

心と身体の健康を創るウェルネス社会の実現を目指して拠点

スマートウエルネスシティ政策開発研究センター
SWC

健幸長寿社会実現に向けたエビデンスに基づく政策化を目指して

健幸ライフスタイル開発研究センター
Lifestyle Innovation TSUKUBA

次世代につなげる健康で幸せなライフスタイルを探究

ゼロCO_2エミッション機能性材料開発研究センター
カーボンニュートラル及び水素社会の実現を目指して

筑波大学
University of Tsukuba

国際産学連携本部

IMAGINE THE FUTURE.

プレシジョン・メディスン開発研究センター ····· page 1

未来社会開発研究センター ····· page 2

スポーツイノベーション開発研究センター ····· page 3

ヘルスサービス開発研究センター ····· page 4

テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター ····· page 5

働く人への心理支援開発研究センター ····· page 6

イノベティブ計測技術開発研究センター ····· page 7

革新的創薬開発研究センター ····· page 8

デジタルネイチャー開発研究センター ····· page 9

健康イノベーション開発研究センター ····· page 10

スマートウエルネスシティ政策開発研究センター ····· page 11

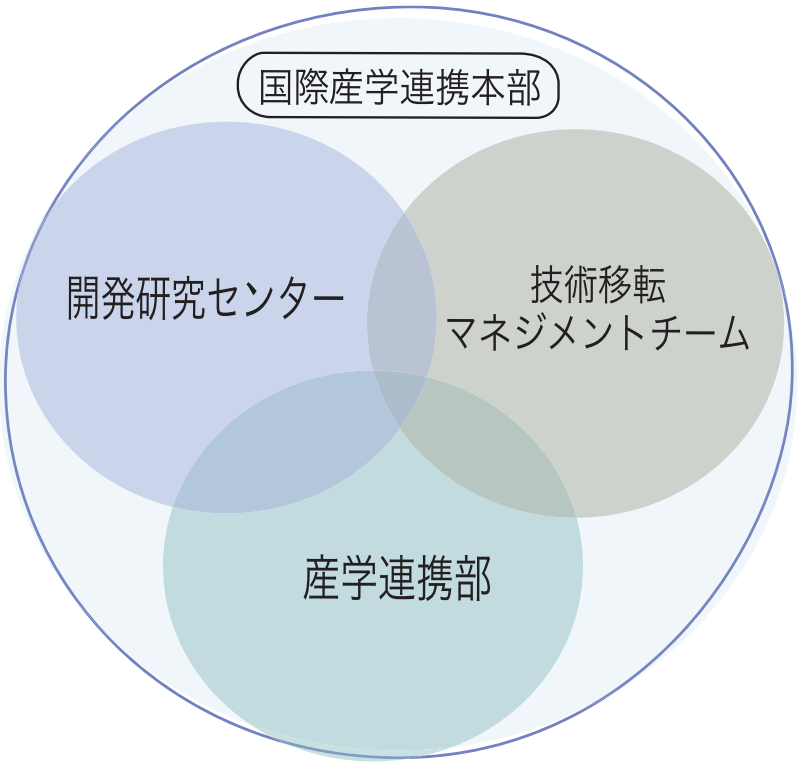
健幸ライフスタイル開発研究センター ····· page 12

ゼロ CO_2 エミッション機能性材料開発研究センター ····· page 13

開発研究センターとは

外部資金を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築するため、平成27年7月1日より、国際産学連携本部のもとに順次創設されました。筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献を担う新たな組織です。
今後も新たな分野でのセンター設置を予定しています。

国際産学連携本部の組織体系



筑波大学のミッション

金保 安則 副学長（産学連携担当）
国際産学連携本部長

研　究 → 研究センター等

社会貢献 → 開発研究組織

教　育 → 学群・大学院

開発研究組織

主旨

- イノベーション創出
- 研究のスピードアップ
- 企業の人的リソース導入
- 産学連携・起業意識の高い人材育成

運営

- 社会的要請の高い学問分野での産学官協働研究体制を構築する。
- 学内施設に置く。期間は設置から５か年度。評価により更新も可。
- 外部資金のみで運営。
- 名称は〇〇開発研究センターとする。

PMC
Research and Development Center for Precision Medicine

プレシジョン・メディスン開発研究センター

平成２９年１月１日発足

プレシジョン・メディスン（精密医療）の社会実装を目指して

プレシジョン・メディスン開発研究センターは、我が国初の１０００ドルゲノム解析研究を達成した拠点です。同センターでは、ヒト型汎用全自動ロボットと連携した最先端のゲノム解析システムや質量分析システムを用いて、科学的証拠に基づいたがんや様々な先天性代謝疾患等の病気の診断と発症メカニズムの解明を行います。当センターでは予防・先制医療研究の機能を兼ね備えた人間ドック「つくば予防医学研究センター」とも連携し、国内外の最先端の研究機関と共同研究を推進しながら、個人に最適の治療や薬の選択につながる「プレシジョン・メディスン（個別化精密医療）」の基盤研究とその社会実装を目指します。

佐藤 孝明センター長

センターのミッション

筑波大学にヒト型汎用全自動ロボットと連携した次世代超ハイスループットヒト全ゲノム配列解析システムを導入し、産官学共同の「個別化精密医療(Precision Medicine)」を社会実装する。

コアラボラトリー７分野

- ゲノム先端医療分野
- がんゲノム・エピゲノム分野
- 先天性代謝疾患分野
- 精密精神医学分野
- ゲノム形態情報学分野
- 食品健康医学分野
- 大規模情報解析分野

高細精医療イノベーション棟

次世代超ハイスループットヒト全ゲノム解析システム

国際戦略総合特区

シーズ創出
基礎研究

共同研究・事業連携
環境提供・人材交流

国家・国際
プロジェクト

筑波大学発ベンチャー
株式会社iLAC
http://www.i-lac.co.jp/

人材
育成・交流

研究機関
- 国立大学法人
- 国立研究開発法人
- 公益財団法人

民間企業
- 製薬会社
- 診断会社
- 精密機器会社
- 治験会社
- IT企業

国立医療機関
- 国立研究開発法人
- 公益財団法人
- 一般財団法人
- 民間医療法人

海外
- 民間バイオベンチャー
- 欧米大学研究機関
- 欧米国立研究機関
- 欧米民間医療機関

所在地：〒305-8550　茨城県つくば市春日1-2　国立大学法人筑波大学　高細精医療イノベーション棟

e-mail　pmc-info@ilc.tsukuba.ac.jp　URL　https://rdcpm.tsukuba.ac.jp/

F-MIRAI R&D Center for Frontiers of MIRAI in Policy and Technology

未来社会工学開発研究センター

平成 29 年4月1日発足

Society5.0 を実現するモビリティ・インフラの先端研究拠点

未来社会工学開発研究センター（通称、F-MIRAI）は、筑波大学とトヨタ自動車（株）によって、「Society 5.0 を実現するモビリティインフラの先端研究拠点」として設立されました。サイバニクス研究センター長、内閣府の FIRST、ImPACT プログラムの責任者としての経験を活かし、当該センターの長として責務を果たします。社会工学等を中核とした研究者との連携、国際統合睡眠医科学研究機構やサイバニクス研究センターなどと連携し、学際性ある融合研究を強化して、組織的な産学官連携による拠点形成を進めます。2021年度は、「モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究 ～ヒューマンセントリックな革新的都市の実現と地域の自立的な存立の貢献に資するための研究～」を中心に、産学協働によって素晴らしい成果が得られるよう取り組んで参ります。

山海嘉之センター長

センターのミッション　Society5.0を実現するモビリティ・インフラの先端研究拠点

《社会課題解決》

移動の自由、時空間制約の解放
＝安全・自由・スムーズに移動できる社会

《経済成長》

新たな社会サービス創出
＝オンデマンドを超える移動可能なサービス

ヒューマンセントリックな革新的都市の実現と地域の自立的な存立

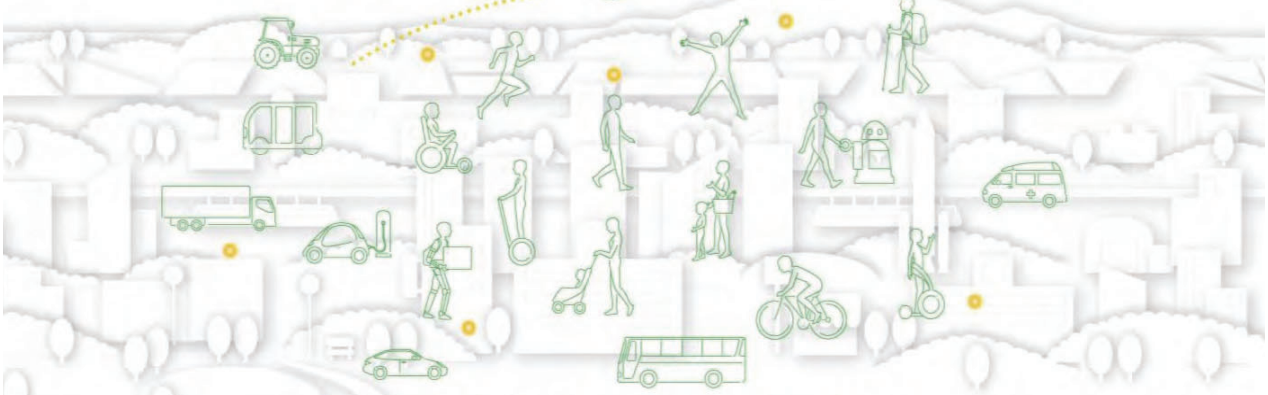
筑波大学
未来社会工学開発研究センター

- システム情報系
- サイバニクス研究センター
- 国際統合睡眠医科学研究機構
- 人工知能科学センター
- ビジネスサイエンス系
- 数理物質系
- 芸術系
- 国際産学連携本部

連携 ⇔ 共同研究

連携 ⇔ 提言

- 官庁・自治体
- 国立研究所
- 国内外大学
- 日本経済団体連合会
- 産業競争力懇談会
- 日本プロジェクト産業協議会



Collaborated by Toyota Motor Corporation

e-mail：info@f-mirai.tsukuba.ac.jp　URL：https://www.f-mirai.tsukuba.ac.jp/

スポーツイノベーション開発研究センター

平成 29 年4月1日発足

AD（アスレチックデパートメント）の構築を目指して

スポーツイノベーション開発研究センターは、アスレチックデパートメントの筑波大学における設置・推進を目指し、そのために必要な開発研究を行います。ミッションを達成するために、アスレチックデパートメントの理念を設定すること、アスレチックディレクターとスポーツアドミニストレーターの役割と仕事内容を明確にすること、そして、これまで日本では馴染みがなかったこれらの人材を育成する必要があります。

また、地域社会と大学との関係を深めるための議論もしなければなりません。並行して、他の大学と連携しながら日本版 NCAA 創設のための準備を進めていきます。

これらはすべて、学生への支援の充実、地域社会との連携の深まり、そして大学の価値の向上へと繋がっていくものです。

高木　英樹 センター長

AD: アスレチックデパートメントとは…

大学学長の下にスポーツアドミニストレーターを配置し、会計、マーケティング、広報、施設、学生支援など、運動部運営に関わる全般についてマネジメントを担当する部署。

センターのミッション

- **研　究**　AD 設立の成果や改善点を研究し、日本の大学スポーツを先導する。
- **人材育成**　世界に通用するスポーツアドミニストレーターを育成する。
- **企業連携**　同じ理念を持つ企業と連携し、スポーツ産業に関する改革を推進する。
- **国際交流**　アメリカの大学との共同研究や教育を通して、学生へ様々な教育研究の機会を提供する。

大学のブランディング

○大学に対するロイヤリティの高まり
○寄付者や未来の学生たちへのポジティブなアピール

大学スポーツ産業化

○グッズやチケットの販売
○大学スポーツを「観る」「する」「支える」
○スポーツが大学の玄関

スポーツの振興

○施設、設備、指導者、PR の強化
○より良いパフォーマンス、より楽しめる社会
○Customer Experience

大学内部の活性化・成長

○大学に対する強い絆ー Royalities/Pride
○より多くの研究費、有能な人材の確保

地域社会の発展

○地域のエンターテインメントとしての大学スポーツ
○サマーキャンプなどの地域貢献
○大学と地域との連携強化

所在地：〒305-8574　茨城県つくば市天王台 1-1-1　国立大学法人 筑波大学　グローバルスポーツイノベーション棟２階

ヘルスサービス開発研究センター

平成 29 年 7 月 1 日発足

生活と調和した医療のために― Towards health services in harmony with life

ヘルスサービス開発研究センターは、平成 29 年7月1日開所して以来、日本初のヘルスサービスリサーチ（HSR）に特化したセンターとして、実績を積んで参りました。
HSR とは、医療を一連のサー ビスとして捉え、「人に健康・幸福をもたらすサービスを、必要な人に、いかに質を高め、効果的に届けるか」を研究し、その質の向上を図る学問です。
国レベルや地域のデータ分析等を通して、実社会とともにサービス向上を目指しています。そして、特に本センターでは、予防から介護福祉を含む広いサービスとその連続性を大切にし、社会に実装することを大切にしています。
開かれた大学である筑波大学らしく、みなさまと共にあるセンターとして、さらに歩んでいきたいと思っております。

田宮 菜奈子センター長

センターのミッション

少子高齢化時代において、「人に健康・幸福をもたらすサービスを、必要な人にいかに効果的に届けるか」を研究し、社会に実装する。

国家との連携

政策提言

エビデンス創出

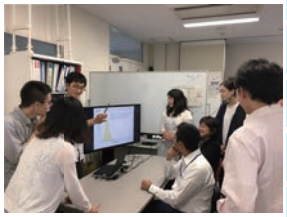
国

公的ファンド

ヘルスサービス開発研究センター

二次データ活用による学際研究の推進と社会実装を推進

医学医療系
病院
体育系
人間系



- 二次データ基盤部門
- 地域包括ケア研究・実装部門
- 地域予防医学部門
- 臨床医学部門
- グローバルエイジング部門
- 家族総合政策部門

学との連携

国際連携

税金を使わず Win-win で高齢社会を支える！

産業界との連携

医療関係企業

（株）JMDC

（株）GMSS ヒューマンラボ

（株）エス・エム・エス

介護サービス業

急性期病院

回復期病院

在宅介護サービス

老人ホームや
老人保険施設

地域との連携

地方自治体

- 老人クラブ
- 自治会
- ボランティア
- NPO 等

生活支援

介護予防

所在地：〒305-8575　茨城県つくば市天王台 1-1-1　国立大学法人 筑波大学　医学系学系棟 861 室

Tel 029-853-3482　e-mail hsr@md.tsukuba.ac.jp

テーラーメイド QOL プログラム開発研究センター

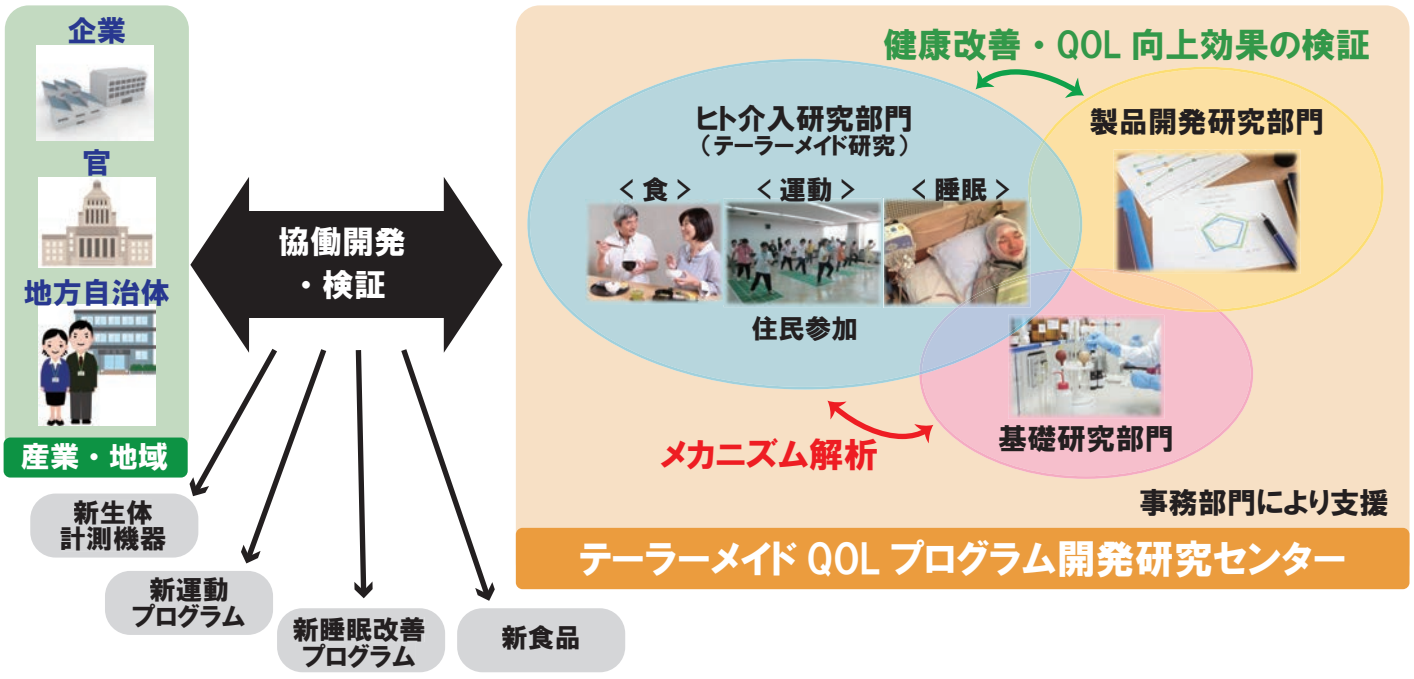
平成３１年２月１日発足

個人の健康状態に合わせたテーラーメイド QOL プログラムの確立へ

テーラーメイド QOL プログラム開発研究センターは、健康状態の改善と同時に QOL (Quality of Life) を維持・向上させる画期的なテーラメイド・プログラムを国内外に発信することを目的としています。
医療費削減は喫緊の課題となっており、国の方針も「治療から予防・改善」といったコンセプトにシフトしています。人生の最後は長期間寝たきりになることが多いという現状から脱却し、QOL を向上させることにより健康寿命が延び、尊厳を持って元気に暮らせる社会を実現する必要があります。これにより、医療費の大幅な削減につながるだけでなく、高齢者のイメージを変え、社会における人的資本・知的資本の蓄積・活用を生み出すことが期待されます。

礒田 博子センター長

センターのミッション



食・運動・睡眠を一体化した
テーラーメイド QOL プログラムの開発

住民一人ひとりの QOL 向上を実現する

グローバルな展開

所在地： 〒305-8550 茨城県つくば市春日 1-2 国立大学法人筑波大学 高細精医療イノベーション棟

Tel 029-859-1593

最先端の「知」を、最前線に。
働く人への心理支援
開発研究センター

働く人への心理支援開発研究センター

平成３１年４月１日発足

働く人への心理支援に関する研究と社会貢献体制を整備した開発研究センター

働く人への心理支援開発研究センターは、働く人への心理支援に関する研究と社会貢献の両面から、ワンストップでのサービス提供拠点を形成することを目的に設立されました。
働く人および働く人を支える家族や組織、さらに働くことに関し、「人は、生涯、発達する」ことを理念とし、活動を推進しています。
本センターの特徴は、生涯発達の多様な領域（学校から社会への移行～中年期～高齢者、妊産婦・出産・育児・介護等）、多様な専門領域（家族・福祉、学校・教育、産業・社会等）、多様な研究領域（心理臨床、社会行動、キャリア発達、メンタルヘルス、惨事ストレス、アディクション等）をカバーする開発研究体制、および社会貢献体制を整備していることです。社会ニーズに沿った実践的研究が促進され、働く人に対する高品質の心理支援サービスの提供が実現されることや、心理支援者の質的向上、および指導者養成に関する機能強化への寄与が期待されます。

岡田 昌毅センター長

センターのミッション

「人は、生涯、発達する。」

**働く現場が様々な環境変化に直面するいま、「心の理解」へのニーズが急速に高まっています。
「人は、いつでも、いつまでも発達できる」と信じ、働くこと、生きることのすべてを支えていきたい。
そんな思いを持った第一線の実践的研究者が、ここに集いました。**

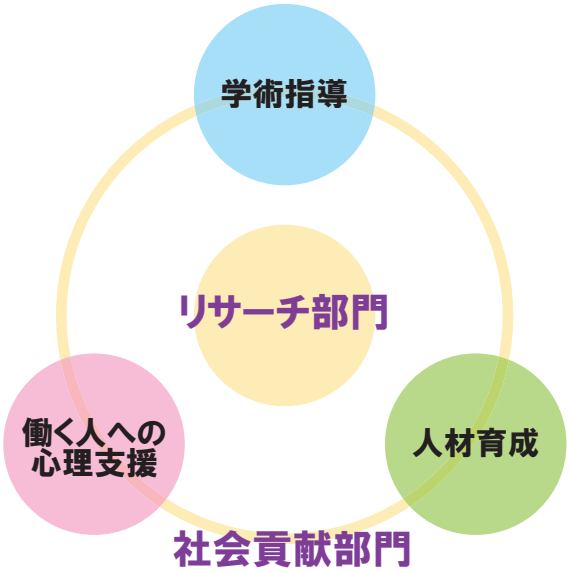
リサーチ部門

働く人への心理支援に関する研究の推進・拡大

社会貢献部門

- **［学術指導］**
  調査コンサルティング、心理統計を駆使した調査・分析、ツール開発等
- **［人材育成］**
  人事育成担当者や支援者、指導者層への研修プログラムの開発・実施、教育効果検証、トレーニング環境の提供等
- **［働く人への心理支援］**
  相談室運営、スーパービジョン、スーパーバイザー養成等

T-One ラボ



＊T-One ラボ
センター愛称。筑波（Tsukuba）大学の知恵を結集し、ワン（One）・チームとなって、ワン（One）ストップのサービスを提供する。

所在地：　〒112-0012　東京都文京区大塚 3-29-1 国立大学法人筑波大学　東京キャンパス文京校舎 458 室
Tel 03-3942-6573　e-mail t-onelab_info@un.tsukuba.ac.jp

イノベイティブ計測技術開発研究センター

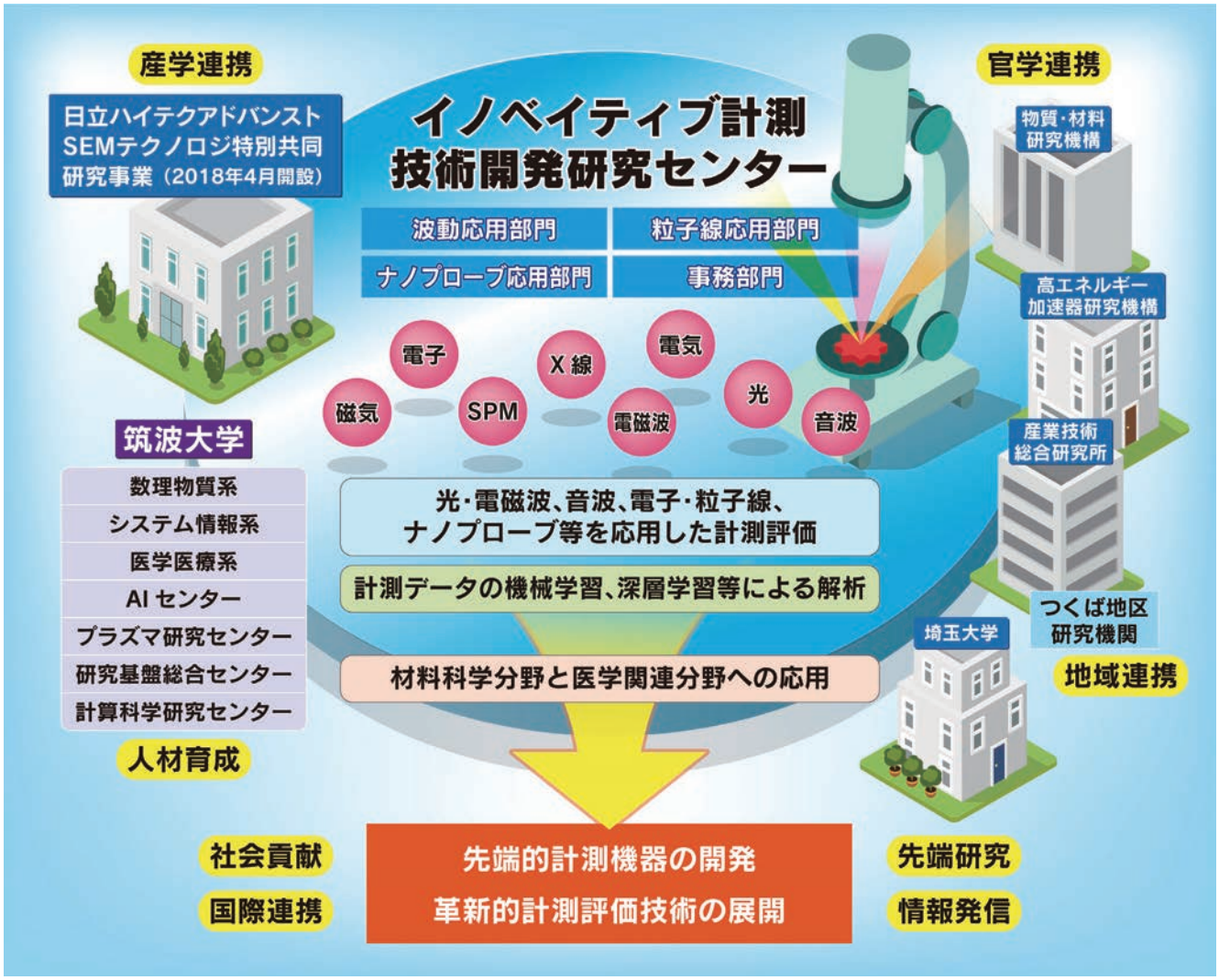
令和元年 10 月 1 日発足

ー 革新的計測評価技術の開発研究を目指して ー

IoT や AI を活用した持続可能な社会の構築を目指して世界が急速に進展しており、それを支える計測評価技術は益々重要性が増しています。本センターは、光・電磁波、音波、電子・粒子線、ナノプローブ等を応用した評価手法を駆使し、機械学習、深層学習等の技術を適用して新たな計測評価技術の開発研究を推進します。応用分野は、半導体をはじめとするナノテクノロジ、機能デバイス等の材料科学分野と病理診断、創薬等の医学関連分野に大別されます。
これらに不可欠な計測評価技術は我が国の産業の中核をなしており、その技術のさらなる進展は我が国の将来を担うものです。
つくばの地域性を生かし、学内外の専門家が集結し、精度・質の高い革新的計測評価技術の開発研究を目指します。

伊藤 雅英センター長

センターのミッション



Tel 029-853-8802　e-mail　rd-center-imc@un.tsukuba.ac.jp　URL　https://imc.bk.tsukuba.ac.jp

革新的創薬開発研究センター

令和元年１０月１日発足

新薬、新技術で、活力ある 100 年の人生を

我が国では、少子超高齢社会が進みつつあり、生活習慣、老化などに起因するがん、循環器、運動器、精神神経、代謝、免疫などの慢性難治性疾患が増加し、疾病構造の変化が生じてきています。このような社会の中で、人生 100 年時代に向けて、全ての人々が、それぞれのライフステージで、生き生きと、健やかに、安心して生活できる社会の創生が望まれています。

近年、再生医療、ゲノム医療、人工知能、ビッグデータの活用など、未来医療を支える技術革新に大きな関心と期待が寄せられています。本センターは、少子超高齢社会における医療ニーズに応え、シーズのさらなる発掘、育成から、これらを応用展開し、社会実装するための基礎研究と創薬・診断技術の開発研究を推進します。

澁谷 彰センター長

センターのミッション

センターの概要

社会実装、社会貢献

【ベンチャー企業】　【製薬企業】

革新的創薬開発研究センター

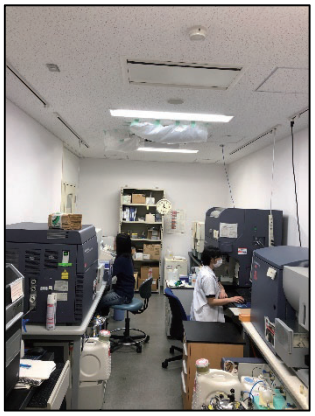
- 企業連携部門（産官学連携、知的財産確保、企業マッチング）
- 創薬開発研究部門
- 診断技術開発研究部門
  - ニーズを見据えたシーズの発掘、育成
  - 基礎研究から開発研究へ
- 事務部門（総務、会計、管理運営業務）

【公的資金】文科省、厚労省、AMED、JST 等

つくば臨床医学研究開発機構（T-CReDO）

期待される成果

- 生き生き健康社会の創生
- 医療産業の活性化
- 若手人材育成の活性化
- 産学連携の推進



所在地：　〒305-8575　茨城県つくば市天王台 1-1-1　国立大学法人筑波大学 革新的創薬開発研究センター

Tel 029-853-3281　e-mail ashibuya@md.tsukuba.ac.jp　URL　immuno-tsukuba.com/index.html

Research and Development Center for Digital Nature

デジタルネイチャー開発研究センター

令和２年６月１日発足

計算機と自然の新しい関係性を探求

ユビキタスコンピューティングや IoT、サイバーフィジカルシステムなどの基盤となる計算機技術は、「新しい自然」と言えるような、「自然物と区別し難い人工物」を生成しつつあります。たとえば、音や光などの波動現象を計算機で制御する技術により、実物と見紛う映像（蝶など）を空中に浮遊させ、本物と区別がつかない物体（素材など）をプリンターから出力することができます。このように計算機技術が生み出した人工物と自然物との相互作用により再構築された環境を「デジタルネイチャー」と呼びます。「デジタルネイチャー」は、3D プリンタなどを用いたデジタルファブリケーション手法や AR/VR など、さまざまな手法により生成されます。この人工生成物は、自然環境との相互作用を経て再びデータ化され、再度自然に還流するフィードバックループによって進化していきます。

本センターは、そのようなフィードバックループの中にある情報メディア装置と人の共創環境について研究し、一連の「デジタルネイチャー」に纏わる研究を推進することにより、社会実装に向けた要素技術等の研究を深化させ、文化・芸術・スポーツとの学際的コラボレーションを通じて、メディア装置等とそれを活用したサービスの開発研究を行って行きます。

落合陽一センター長

センターのミッション

「デジタルネイチャー」のビジョンに基づき、文化・芸術・スポーツとの学際的コラボレーションを通じて、計算機と自然と人の共生関係を探求する

所在地：〒305-0821 茨城県つくば市春日1-2 国立大学法人筑波大学 春日エリア7B140

Tel 029-853-5600（内線81417）　e-mail：contact@digitalnature.slis.tsukuba.ac.jp

健幸イノベーション開発研究センター

令和2年7月1日発足

心と身体の健康を創るウェルネス社会の実現を目指して

少子高齢化と労働人口の減少が加速度的に進む昨今、健康寿命を延ばすための方法や技術、具体的サービスの重要性が増しています。

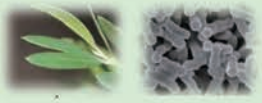
健幸イノベーション開発研究センターは、食素材と食以外の外用素材の機能性、および香りや光などの感覚刺激の機能性などを様々なモデル生物系を用いて評価し、健康寿命の延伸に関わる素材や感覚刺激環境の開発研究を推進します。さらに、社会実装に向けた技術・方法を開発し、具体的サービス（製品化プロトコル、コンサルタント、情報発信など）の提供を通じて、心身の健康長寿を推進する社会の実現を目指します。

本センターを拠点として、心身共に健康で幸福感を実感できる健康長寿（ウェルネス）社会の実現を目指します。

坂本　和一　センター長

センターのミッション

食・非食・刺激などのもつ生理機能を探索・解析し、健康寿命を延ばす技術や方法、サービスを開発し、社会に還元する。



健康素材（食・非食）の機能性

リサーチ部門

健康寿命・ヘルスケア全般にかかる基礎研究の推進

健康刺激（香り・光など）の機能性

情報・広報部門

シンポジウム、公開講座、セミナーなど情報発信の推進

人材育成

・包括的かつ横断的な研究環境の整備
・国際的に活躍できる人材の育成

産官学連携

・統合的・効率的な研究の推進
・異分野連携、新規産業創出の推進

国際連携

・海外の大学、研究機関、企業との人材交流や共同研究の推進

技術、方法、サービスの提供

心と身体の健康長寿（ウェルネス）社会の実現

少子高齢化対策　労働人口対策　医療費削減

健康長寿

幸福感

所在地：〒305-8572 茨城県つくば天王台１－１－１　国立大学法人筑波大学　健幸イノベーション研究センター　生命農林棟B615

Tel:029-853-4676（内線81417）　e-mail：sakamoto@biol.tsukuba.ac.jp　http://kazlab-sirtuin.net/

スマートウエルネスシティ政策開発研究センター

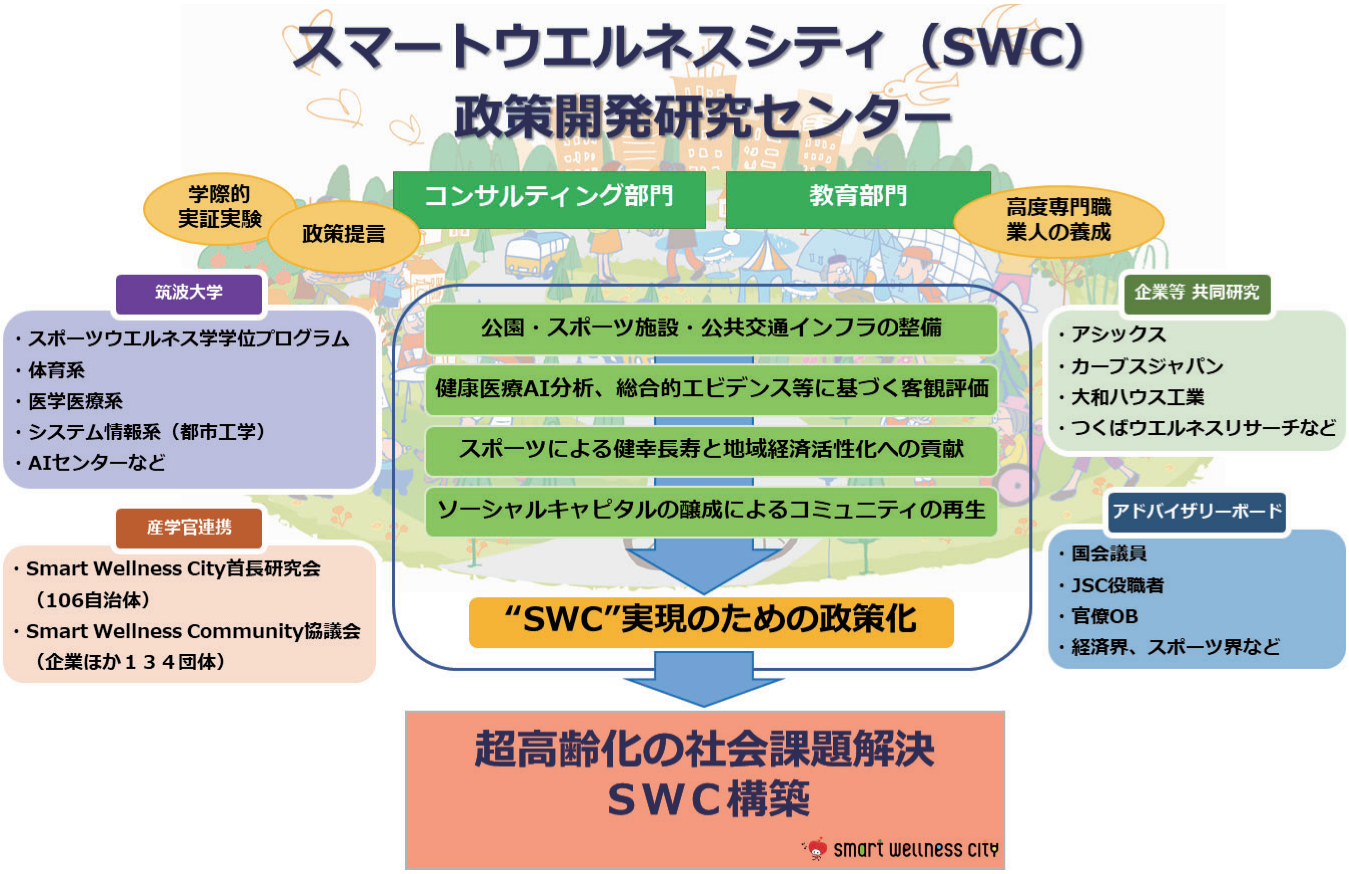
令和２年１１月１日発足

健幸長寿社会実現に向けたエビデンスに基づく政策化を目指して

スマートウエルネスシティ政策開発研究センターは、健康長寿社会を実現できる都市の創生に資するため、超高齢社会に起因した諸課題に関する開発研究を推進し、その成果としての政策を社会に提言するとともに、これらを実現できる高度職業人の養成機能を確立することを目的としています。高齢者が安心・安全に暮らせるスマートウエルネスシティ（以下SWC）を創生するためのエビデンスの集積と政策化のためには、スポーツウエルネス学、医学、都市工学、AIなどの有機的な融合による大規模かつ学際的な実証実験を行うことが必要になっています。本センターは、スポーツウエルネス学領域で蓄積してきた健幸のためのスポーツの有用性と都市環境のあり方に関するエビデンスに加え、上記の学際研究領域や自治体，企業と連携した共同研究を推進して、政策提言や人材養成に貢献します。

久野 譜也センター長

センターのミッション



所在地：〒112-0012　東京都文京区大塚3-29-1　国立大学法人筑波大学東京キャンパス　文京校舎563室

Tel　03-3942-5841　e-mail　kuno.shinya.gb@u.tsukuba.ac.jp　URL　https://swc.taiiku.tsukuba.ac.jp/

健幸ライフスタイル開発研究センター

令和4年4月1日発足

次世代につなげる健康で幸せなライフスタイルを探究

吉本尚センター長

近年、世界各国で、人口減少や少子高齢化・格差社会・グローバル化といった社会構造の変化や、地球規模課題である環境・エネルギー問題、新興・再興感染症の流行、健康志向の高まりや価値観の変化などが生じており、人々のライフスタイルはこれらの変化に対応することが求められています。国連のSDGsの中にも、例えば目標3の「すべての人に健康と幸福を（Good Health and Well-Being）」では、生活習慣病対策や適正飲酒に関する内容が含まれており、より一層のライフスタイル変容が求められています。また、多様な価値観の中では、健康と幸福のバランス感覚も求められるようになってきています。

同センターでは、身体的持久力や脳疲労などの心身の健康に関する基礎研究や、健康障害・QOLと飲酒様式等に関する研究を推進し、その研究結果を基盤として、健康で幸せなライフスタイルを構成する商品・サービスの開発支援、地域コミュニティでの新文化創出などを行っていきます。これらを通して科学的根拠に基づいた、より良いライフスタイルの創生を目指していきます。筑波大学の特徴である学際性や国際性を重視した、多分野の大学内外の研究者が集まる場に加え、共同研究を行う複数の企業同士が連携・協調するシステムを構築し、新しい価値創造に取り組みます。こうした取り組みの成果を多くの方に知っていただけるよう、定期的に社会に向けて発信いたします。

センターのミッション

所在地：〒305-8550　茨城県つくば市春日1－2　国立大学法人筑波大学　高細精医療イノベーション棟
Tel 029-853-1019（内線81499）　e-mail：rdc-lifestyle@md.tsukuba.ac.jp

ゼロCO_2エミッション機能性材料開発研究センター

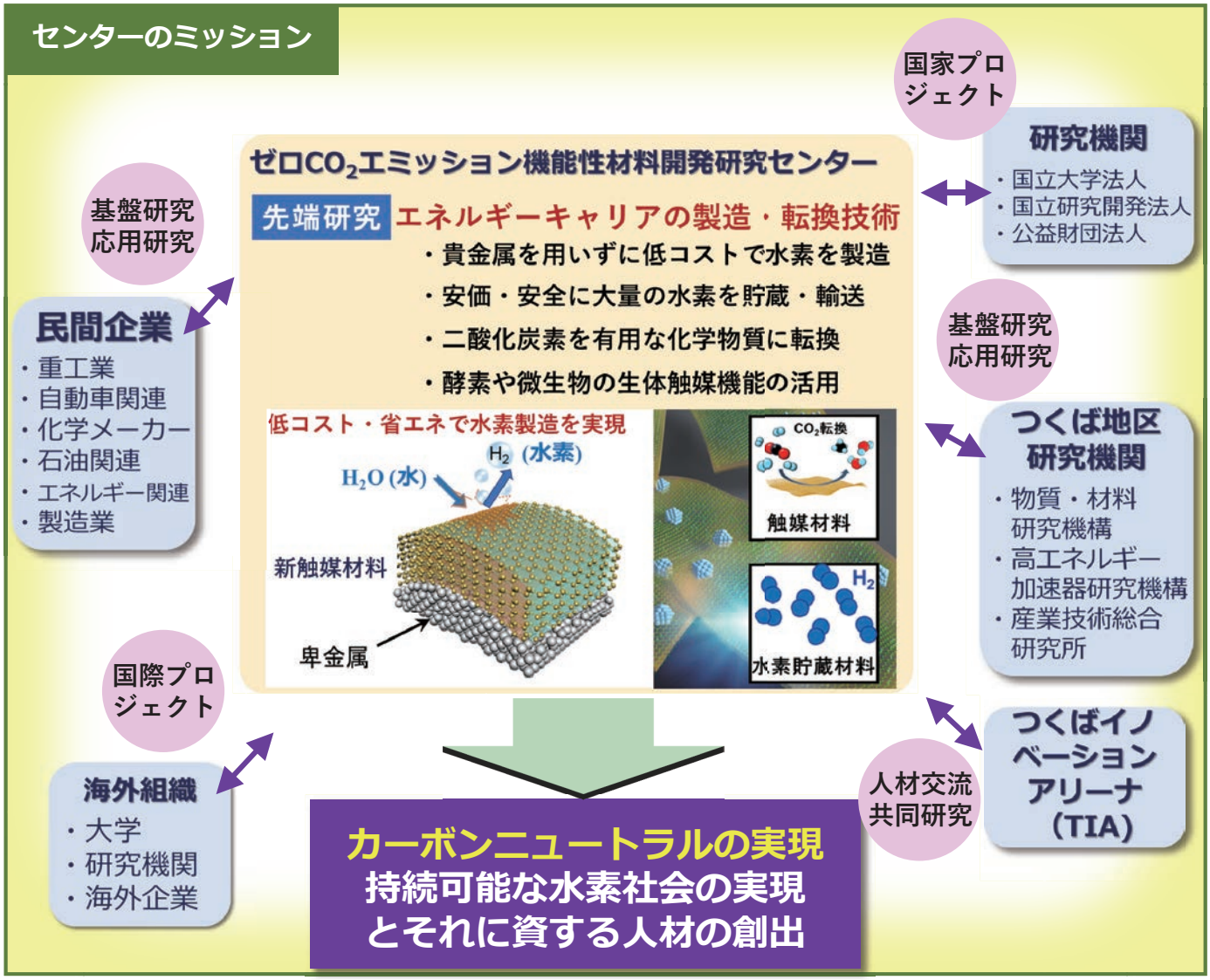
令和４年４月１日発足

－カーボンニュートラル及び水素社会の実現を目指して－

現在、地球温暖化に伴い、温室効果ガスである二酸化炭素を排出しない脱炭素（カーボンニュートラル）が地球規模で求められています。水素は水から製造可能であり、水素を用いた燃料電池は、発電の際の化学反応において二酸化炭素を排出せずに水のみを生成物として産生するため、再生可能エネルギーの中心的なエネルギーキャリアとして注目されています。この様に、水素は、持続可能な ゼロカーボン社会を担う重要な分子です。本センターでは、水素の製造・貯蔵・輸送に関する基本的な重要技術と二酸化炭素をメタノールやギ酸などの化成品や燃料の原料となる有用な物質に転換するグリーンイノベーション基盤技術の開発研究を推進します。

近藤剛弘センター長

センターのミッション



所在地：〒305-8573　茨城県つくば市天王台1-1-1　筑波大学総合研究棟B307

Tel　029-853-5934　　e-mail　takahiro@ims.tsukuba.ac.jp

筑波大学
国際産学連携本部

筑波大学
University of Tsukuba

〔2022.4〕